

運用管理ツール

機能アップガイド

Ver.2.50 / Ver.2.12

目次

システムバックアップを復元する際に、奉行製品のデータ領域作成先にデータが復元されるように変更	2
--	---

- **システムバックアップを復元する際に、奉行製品のデータ領域作成先にデータが復元されるように変更**

システムバックアップを復元する際に、今までは、バックアップ前の保存先に復元するか、指定したドライブに復元するかを選択していました。

今回より、自動的に、奉行製品をセットアップする際に指定したデータ領域作成先に、データが復元されるようになりました。

※奉行製品のデータベースと異なる場所にあった奉行製品以外のデータベースをシステムバックアップして復元した場合は、以前の場所に復元されます。

運用管理ツール

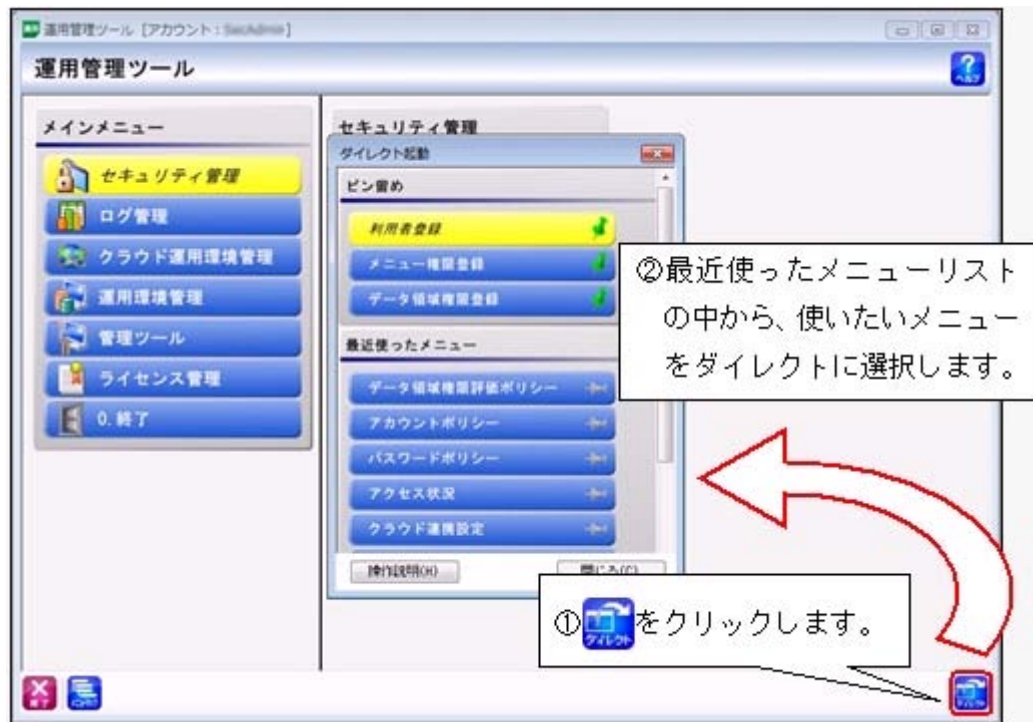
機能アップガイド

Ver.2.11

目次

よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューを追加	2
システムバックアップ復元時に、自動的に環境構築をするように変更	2

- **よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューを追加**
ダイレクト起動メニューを利用すると、最近使ったメニューを簡単に開くことができます。
さらに、よく使うメニューをリストに固定表示することで、毎日使用しているメニューをすばやく起動できます。



- **システムバックアップ復元時に、自動的に環境を構築するように変更**
システムバックアップ復元ですべてのデータベースを復元する際に、今までは、システムバックアップ復元後に各製品の導入ウィザードを起動して環境を構築する必要がありました。
今回より、システムバックアップ復元を実行するだけで、プログラムが自動的に環境を構築するようになります。

参 考

お使いの製品のバージョンによっては、システムバックアップ復元時に導入ウィザードが表示される場合があります。
その場合は、画面の指示にしたがって、表示された製品の導入ウィザードをすべて完了させてください。

運用管理ツール

機能アップガイド

Ver.2.10/Ver.2.02

目次

[ライセンス一覧]メニューを追加	2
[お気に入りメニュー初期設定]メニューを追加 ＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞	2
[クラウド設定]メニューを追加 ＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞	2
[クラウドライセンス登録]メニューの名称を[クラウドライセンス解除]メニューに変更 ＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞	2
「奉行クラウドオプション導入ウィザード」の機能を[クラウド連携設定]メニューに集約 ＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞	3

● [ライセンス一覧]メニューを追加

『奉行製品』および『オプション製品』について、ライセンス情報を一覧で確認できる、[管理ツール]-[ライセンス一覧]メニューが追加されました。

『奉行製品』または『オプション製品』に対して、OMSS（またはOMSS+）にご加入いただいているお客様に提供する「OMSSの業務支援サービス」（サービスの詳細は「<http://www.obc.co.jp/click/omss/>」参照）をお使いの場合は、その利用期間も、「OMSSの業務支援サービス」ごとに確認することができます。

● [お気に入りメニュー初期設定]メニューを追加

＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞

『参照専用ライセンス』の[お気に入り]画面について、初期設定できる、[管理ツール]-[お気に入りメニュー初期設定]メニューが追加されました。

[お気に入り]画面を初期設定すると、『参照専用ライセンス』の利用者がはじめてログインした際に、設定した[お気に入り]画面が初期で表示されます。

『参照専用ライセンス』の利用者は、初期表示内容から、独自の[お気に入り]画面に変更することもできます。

● [クラウド設定]メニューを追加

＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞

[クラウド運用環境管理]-[クラウド連携]-[クラウド連携設定]メニューで設定した内容を確認できる、[管理ツール]-[クラウド設定]メニューが追加されました。接続先URLを、お客様独自のURLに変更することもできます。

● [クラウドライセンス登録]メニューの名称を[クラウドライセンス解除]メニューに変更

＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞

[ライセンス管理]-[クラウドライセンス登録]メニューは、『奉行クラウドオプション』のライセンスの解除を行うメニューとして機能が集約され、メニューの名称も[クラウドライセンス解除]メニューに変更されました。

『奉行クラウドオプション』のライセンスの変更・追加は、[クラウド運用環境管理]-[クラウド連携]-[クラウド連携設定]メニューで行うようになります。

複数の『奉行クラウドオプション』をお使いのデータ領域に対して、一部の『奉行クラウドオプション』の使用を止める場合だけ、[クラウドライセンス解除]メニューをご利用ください。

- 「奉行クラウドオプション導入ウィザード」の機能を[クラウド連携設定]メニューに集約

＜『奉行クラウドオプション』をお使いの場合＞

『奉行クラウドオプション』の環境を構築する際に、今までは「奉行クラウドオプション導入ウィザード」と[クラウド運用環境管理]-[クラウド連携]-[クラウド連携設定]メニューの2つの処理を行う必要がありました。

今回より、[クラウド連携設定]メニューだけで『奉行クラウドオプション』の環境を構築できるようになります。

このため、[スタート]の中にある（[すべてのプログラム]-[奉行シリーズ]-[ツール]-）[運用管理ツール（ネットワーク版 Server）ツール]を選択し、表示される[運用管理ツール（ネットワーク版 Server）ツール]画面から、「奉行クラウドオプション導入ウィザード」が表示されなくなりました。

運用管理ツール

機能アップガイド

Ver.2.01 / Ver.2.00

目次

[メールサーバー設定]メニューが表示される条件を変更	2
システムバックアップ復元に、復元するデータベースを選択する機能を追加	2
Windowsの [スタート] ボタンからの、システムバックアップ等の起動方法が変更	3

● **[メールサーバー設定]メニューが表示される条件を変更**

今までは、メール機能を利用する製品がセットアップされている場合だけ、[運用環境管理]-[メールサーバー設定]メニューが表示されていました。

今回より、メール機能を利用する製品がセットアップされていない場合も、[メールサーバー設定]メニューが表示されるようになります。

※[セキュリティ管理]-[利用者登録]メニューの[権限設定]ページ、「利用者管理」にチェックが付いている管理者に表示されます。

● **システムバックアップ復元に、復元するデータベースを選択する機能を追加**

今までは、システムバックアップ復元は、システムバックアップしたタイミングでとったすべてのデータ領域を復元していました。

今回より、復元するデータ領域を選択できるようになります。

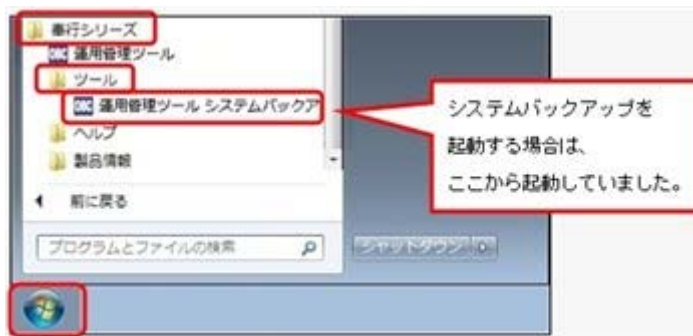
[復元データの選択]画面で、復元するデータ領域にチェックを付けます。

▼ **例**

『奉行製品』のデータベースが破損した場合で、[随時処理]-[バックアップ]メニューでとったバックアップよりも、[システムバックアップ]メニューでとったバックアップの方が新しい場合に、より直近のデータから復元できます。

- Windowsの「スタート」ボタンからの、システムバックアップ等の起動方法が変更
今までは、「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」-「奉行シリーズ」から、システムバックアップ等を起動していました。

▼イメージ図



今回より、「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」-「奉行シリーズ」-「ツール」-「運用管理ツール（ネットワーク版 Server）ツール」から、システムバックアップ等を起動します。

▼イメージ図



運用管理ツール 機能アップガイド

Ver.1.53



目次

汎用データ受入時に、テキストファイル内の「改行コード」と「最終行」の判定の精度を向上	2
通知メールの暗号化（SSL）に対応	2

セキュリティ管理

- **汎用データ受入時に、テキストファイル内の「改行コード」と「最終行」の判定の精度を向上**

汎用データのテキストファイルを受け入れる際に、1行データの区切りである「改行コード」について、今までは「CR+LF」だけを「改行」と認識していましたが、「CR」または「LF」だけの場合でも改行と認識するようになりました。

また、テキストファイルの最終行が「Tab」または「スペース」だけの場合に、今まではデータ行と認識して未受入データにしていたのですが、データ行とは認識せずに未受入データに含めないようになりました。

運用環境管理

- **通知メールの暗号化（SSL）に対応**

通知するメールの内容を、暗号化（SSL）できるようになりました。

メールサーバーによっては、メールの内容を暗号化（SSL）しないと送信できませんが、その場合は「暗号化する」を設定すると、送信できるようになります。


[運用環境管理]-[メールサーバー設定]メニューを開き、[詳細設定]ページの暗号化接続（SSL）で設定します。




運用管理ツール 機能アップガイド

Ver.1.51 / Ver.1.52



目次

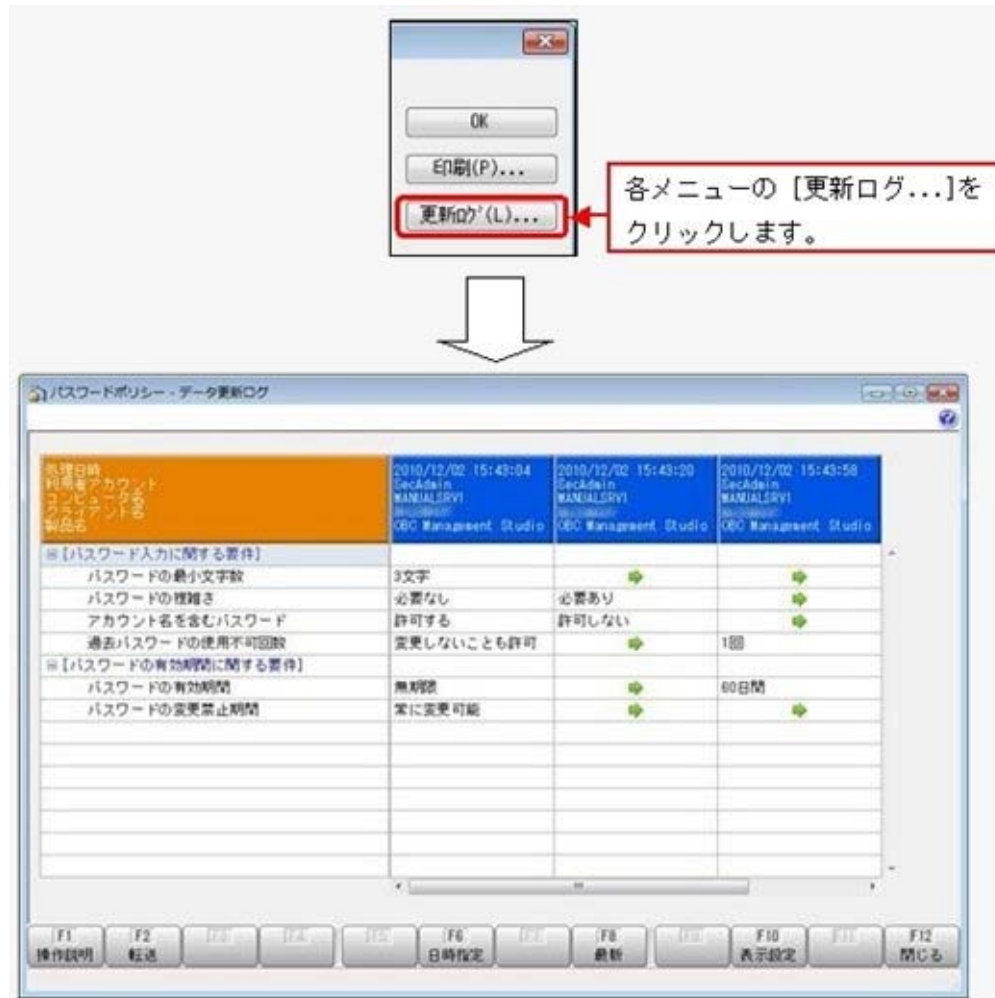
※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]の各メニューに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認可能	2
	『自動実行管理オプション』側で、スケジュール終了時にメールで通知するように設定した場合の注意点 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	3
	[ワークフロー作成]メニューの機能の強化	3
	[ログ保存期間設定]メニューに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認可能	5
	印刷する際に、項目名欄の網掛けの濃度を調整可能	6
	ログ削除で利用しているサービス名を変更	7
	XenApp 6.0/Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、クライアント用コンピュータに作成可能	7



- [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]の各メニューに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認可能

[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]の各メニューで、過去に更新されたデータの内容を時系列に一覧で確認できるようになりました。



◀ 関連メニュー ▶

- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[パスワードポリシー]メニュー
- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[アカウントポリシー]メニュー
- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[データ領域権限評価ポリシー]メニュー

運用環境管理＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

- 『自動実行管理オプション』側で、スケジュール終了時にメールで通知するように設定した場合の注意点

『自動実行管理オプション』の[自動実行管理]-[スケジュール登録]メニューの[通知設定]ページの「スケジュール終了時にメールで通知する」にチェックを付けた場合は、『運用管理ツール』の[運用環境管理]-[メールサーバー設定]メニューで、メールサーバーを設定する必要があります。

※『運用管理ツール』の[運用環境管理]-[メールサーバー設定]メニューでメールサーバーを設定すると、『運用管理ツール』と『自動実行管理オプション』のメールサーバーの設定が、一括で設定されます。

ワークフロー管理



- [ワークフロー作成]メニューの機能の強化

○メールの通知方法を設定できる機能を追加

[ワークフロー作成 - オプション]画面の[メール設定]ページで、メールを通知する際の、差出人または件名を設定できるようになりました。

○承認が不要だった承認者も、Webオプション上で承認不要となった申請書を確認できる設定を追加

[ワークフロー作成 - オプション]画面の[承認不要履歴設定]ページで、承認不要の履歴を保存する設定が追加されました。

承認不要の履歴を「保存する」に設定した場合は、承認が不要だった承認者もWebオプション上で、承認不要となった申請書を確認できます。

※[ワークフロー管理]-[ワークフローログ]メニューの[ワークフローログ - タスク詳細]画面の[アクション]ページの 実行区分では「不要」として表示されます。

※承認不要の履歴は、Webオプション上のワークフローの処理区分に「不要」として表示されます。

▼例

承認者Aさんと承認者Bさんの両方に申請書の承認依頼が届いた際に、承認者Aさんの方で承認を済ませ、承認者Bさんは承認が不要となった場合

今までは、承認者BさんはWebオプション上で承認不要となった申請書の履歴を確認できませんでした。

今回より、承認者Bさんも、Webオプション上で承認不要となった申請書の履歴を確認できます。

※上記の例は、[プロパティ - 詳細設定]画面の[承認条件]ページで処理比率が「1人以上の」と設定されている場合です。

注 意

承認不要の履歴を「保存する」に設定した場合でも、Webオプション側が以下のバージョン以降でないと、承認不要の履歴は表示されません。

- 『勤怠管理Web』お使いの場合は、バージョンが「1.53」以降
- 『身上異動申請Web』をお使いの場合は、バージョンが「1.53」以降
- 『仕訳伝票Web』をお使いの場合は、バージョンが「1.54」以降

○承認依頼通知を複数の承認者にメールした際に、他の承認者が分かるようにメールの本文に記載

承認依頼を通知した際に、複数の承認者がいる場合は、宛先以外の承認者の名前が、本文に記載されるようになりました。他の承認者が誰なのかを、一目で確認できます。

○否認通知のメールの本文にWebオプションへのURLのリンクを記載

否認した際のメール通知の本文に、WebオプションへのURLのリンクが記載されました。

※否認した際にメールを通知する場合は、[ワークフロー作成]メニューの「承認」アクティビティの[プロパティ]画面の[メール設定]ページの「承認または否認されたら、申請者に通知する」にチェックを付けます。

○メールの本文をより分かりやすい文章に改善

メールの本文の文章の一部をより分かりやすい文章に改善しました。

▼例

承認依頼通知の場合



○ワークフロー一覧に有効なワークフローだけを表示できる機能を追加

[ワークフロー作成]メニューのワークフロー一覧で、有効なワークフローだけを表示できるようになりました。

有効なワークフローだけを表示する場合は、「無効なワークフローも表示する」のチェックを外します。

ログ管理



- [ログ保存期間設定]メニューに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認可能
[ログ管理]-[ログ保存期間設定]メニューで、過去に更新されたデータの内容を時系列に一覧で確認できるようになりました。

その他

● 印刷する際に、項目名欄の網掛けの濃度を調整可能

網掛け印字する帳票において、印刷する際に、[印刷設定] ページで網掛け部分の濃度を調整できるようになりました。

これにより、項目名の欄の網掛けを濃くして強調したり、項目名を見やすくするために網掛けを薄くしたりできます。

入力したタイトルが帳票名として印字されます。
参考 [初期値] ボタンをクリックすると、初期値に戻ります。

参考 設定対象名に対して、網掛け濃度を設定します。
濃度 [%] の左に出力時のサンプルが表示されます。
0~50

項目名

利用 者 一 覧

利用者アカウント	利用者コード	利用者名	説明
Arakawa	0000100020	荒川 明夫	社員番号: 100010 役職: 部長
Atakeyama	0000100031	武山 昭夫	社員番号: 100031 役職: 部長
Cishida	0000100043	石田 千秋	社員番号: 100043 役職: 部長
Etsutsui	0000100013	関井 英治	社員番号: 100013 役職: 部長
Hirakawa	0000100045	平川 博子	社員番号: 100045
Hogawa	0000100023	小川 高明	社員番号: 100023 役職: 部長
Hirakawa	0000100032	高瀬 夢子	社員番号: 100032 役職: 主任
Hatanaka	0000100026	谷山 浩子	社員番号: 100026

- **ログ削除で利用しているサービス名を変更**

ログ削除で利用しているWindowsサービスは、サービス名「OBC Monitor Manager (Multi／Single) Service」でしたが、今回より「OBC Management (Single) Service」に変更されました。

このため、「OBC Management (Single) Service」に対して、ログオンアカウントを設定する必要があります。

注 意

すでに、今までのサービス「OBC Monitor Manager (Multi／Single) Service」に個別のログインアカウントを設定済みの場合は、今回のプログラムをセットアップした後に、新しいサービス「OBC Management (Single) Service」に対して再設定してください。

- **XenApp 6.0／Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、クライアント用コンピュータに作成可能**

今までは、XenApp 6.0／Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、自動マッピング（リダイレクト）されたクライアント用コンピュータのドライブに作成できませんでした。今回より作成できるようになりました。

運用管理ツール

機能アップガイド

Ver.1.50



機能追加／改正情報

Ver. 1.50 変更内容
《その他》
[システムバックアップ]メニューで、バックアップ先にリムーバブルディスクも指定できるように変更
条件設定画面のコードの範囲指定で、1つのコードをスムーズに指定できるように改善
[ヘルプ]メニューを、メニュー画面の右上に移動

機能追加／改正情報

Ver. 1.50 変更内容の詳細

セキュリティ管理

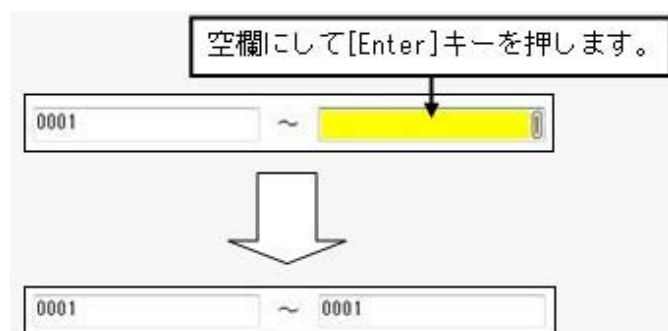
- [システムバックアップ]メニューで、DB依存モードでのバックアップ先にもリムーバブルメディアドライブを指定できるように変更

[\[システムバックアップ\]メニュー](#)で、「USBフラッシュドライブ（USBメモリ）」や「MOドライブ」などのバックアップ先にリムーバブルディスクを指定できるようになります。

- 条件設定画面のコードの範囲指定で、1つのコードをスムーズに指定できるように改善

条件設定画面のコードの範囲指定において、「終了コード」を空欄にして[Enter]キーで確定すると、「開始コード」と同じコードが「終了コード」欄にもセットされるようになります。

これにより、1つのコードを指定する際に、よりスムーズに指定できるようになります。



● [ヘルプ]メニューを、メニュー画面の右上に移動

[ヘルプ]メニューを、メインメニューの中から、メニュー画面の右上に移動します。



運用管理ツール

機能アップガイド

Ver.1.21



機能追加／改正情報

今回のプログラムで変更された内容を紹介します。
詳細を確認する場合は、変更内容をクリックしてください。

Ver. 1.21 変更内容
《セキュリティ管理》
メニューの名称を変更
[組織単位登録]メニューを追加
監査用のアカウント（読み取り専用の利用者）を追加
「利用者管理」「ログ管理」「権限管理」の管理者に、データ領域権限を付与できるように変更
[メニュー権限登録]メニュー・[データ領域権限登録]メニューに一括複写機能を追加
《ワークフロー管理》 <Webオプションをお使いの場合>
ワークフロー管理を使用できる権限を、「SecAdmin」相当の管理者から「権限管理」管理者に変更
[ワークフロー作成]メニューの機能を強化
[ワークフローログ]メニューの機能を強化

機能追加／改正情報

Ver. 1.21 変更内容の詳細

セキュリティ管理

● メニューの名称を変更

[データ領域権限設定]メニューの名称を、[\[データ領域権限評価ポリシー\]メニュー](#)に変更しました。

● [\[組織単位登録\]メニュー](#)を追加 <Webオプションをお使いの場合>

利用者を組織単位ごとにまとめる機能を追加しました。

[\[ワークフロー作成\]メニュー](#)で、申請者、承認者、閲覧者の条件に利用者を割り当てる際に、組織単位で指定できます。

● 監査用のアカウント（読み取り専用の利用者）を追加

監査用のアカウント（読み取り専用の利用者）として、「SecGuest」が追加されました。

（初期では「無効」に設定されています。）

「SecGuest」の利用者は、「読み取り専用」が初期で設定されており、メニュー権限を個々に設定しなくても、以下の制限された動作をシステム側で保証します。

○データを閲覧および更新するメニューは、閲覧（参照）だけに制限された状態で自動的に起動します。

○データを更新するだけのメニューは、起動自体が制限されます。

なお、この「読み取り専用」は、他の利用者にも設定できます。

● 「利用者管理」「ログ管理」「権限管理」の管理者に、データ領域権限を付与できるように変更

「利用者管理」「ログ管理」「権限管理」の管理者に、データ領域権限を付与できるように変更しました。

▼例

A社・B社・C社の3社のグループ会社を管理しています。

山田一郎さんは、A社の「権限管理」および「ログ管理」の管理者です。

今回追加された設定を使用して、山田一郎さんにA社のデータ領域権限を付与することで、B社・C社のデータ領域や操作ログは、山田一郎さんには参照できないように制御できます。

コード	名称
0000000001	A 社
0000000002	B 社
0000000003	C 社

コード	名称
0000000001	A 社

[利用者登録]メニューで、以下のように設定します。

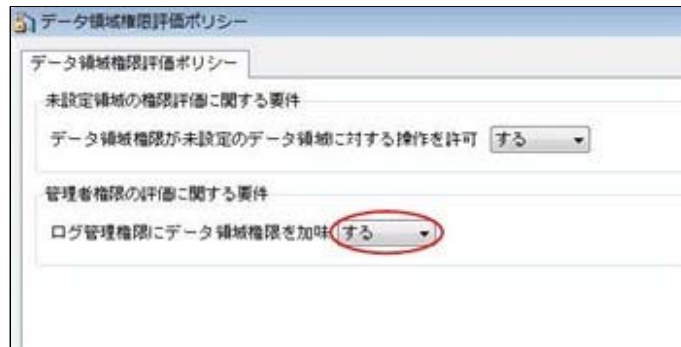
○権限選択 : 管理者

- ログ管理 : チェックを付ける
- 権限管理 : チェックを付ける
- データ領域権限 : 適用する

※ [\[データ領域権限登録\]メニュー](#) で、A社の権限だけを設定できるようにします。

注 意

「ログ管理」の管理者が、上記で設定したデータ領域権限を加味したい場合は、[\[データ領域権限設定評価ポリシー\]メニュー](#) の管理者権限の評価に関する要件で、ログ管理権限にデータ領域権限を加味「する」に設定する必要があります。



● [\[メニュー権限登録\]メニュー](#) ・ [\[データ領域権限登録\]メニュー](#) に一括複写機能を追加

今までは、メニュー権限・データ領域権限を複写する際に、複写先に1名しか指定できませんでした。

今回より、複写先に複数名を指定して、一括で複写できるようになりました。

ワークフロー管理 <Webオプションをお使いの場合>

● ワークフロー管理を使用できる権限を、「SecAdmin」相当の管理者から「権限管理」の管理者に変更

[ワークフロー管理]メニューを使用できる権限を、「SecAdmin」相当の管理者から「権限管理」の管理者に変更しました。

● [\[ワークフロー作成\]メニュー](#) の機能を強化

- 「承認者確認リスト」の出力機能を追加

ワークフローの流れで申請者ごとの承認者を確認できる、[「承認者確認リスト」](#)を出力できるようになりました。

- 「設定確認リスト」の出力機能を追加

ワークフローごとに設定内容の詳細を一覧で確認できる、[「設定確認リスト」](#)を出力できるようになりました。

- ワークフロー作成の画面を改善

[ワークフロー作成]メニューを起動した際に、作業したい内容を分かりやすく選択できるようになりました。

- 申請が滞留した際に、再通知する機能を追加

申請後、承認されない状態が続いた場合に、承認者に再通知できるようになりました。

- メール送信機能を強化

ワークフローで問題が発生した際や承認や閲覧の際など、ワークフローに関するすべてのメールが通知される宛先を設定できるようになりました。ワークフローの管理者などを

「T0」や「CC」として設定しておくことで、全体の状況を把握することができます。
※宛先は、ワークフローごとに設定できます。

● **[ワークフローログ]メニュー** の機能を強化

○申請中のタスクごとに状態を表示する機能を追加

サービスが停止するなどの問題が発生した際に、警告アイコンを表示する機能を追加しました。

○申請中のアクションごとに滞留通知を表示する機能を追加

申請中のアクションごとに、滞留申請情報の再通知の件数や履歴を表示する機能を追加しました。